■ 焼岳についてQ＆A

Q１）焼岳はどんな山なの？

Ａ１） 焼岳は、数千～千数百年の間隔でマグマの噴出を繰り返してきました。近年では大正４年、大正14年、昭和37年などの水蒸気爆発を多数おこしています。
　現在も噴気活動を続けており、しばしば群発地震も観測される若い活火山です。

Q２）焼岳はまた噴火するの？

Ａ２） 焼岳は、近年でも噴気活動や群発地震が発生しているので、今でも噴火する力を十分持っています。このため、今後はいつかわかりませんが、近い将来再び噴火する可能性があります。

Q３）噴火をまえもって知ることはできるの？

Ａ３） 噴火が始まる時刻まで正確に予測することは難しいです。しかし、マグマが関係した大噴火時は、地面のひび割れや噴気の変化など噴火前のさまざまな前兆現象があると思われます。
　ただし、水蒸気爆発の前兆現象については、よくわかっておらず、突然発生する可能性もあります。

Q４）いつの時点で避難すればいいの？

Ａ４） 火砕流や火砕サージは時速100km以上の高速で流れ下るため、噴火が発生してからの避難では間に合いません。避難の指示等に従って「早めの避難」が大切です。マップで示されている危険区域以外へ避難しましょう。

Q５）噴火に備えて何をしておけばいいの？

Ａ５） 焼岳が活火山であることや、どのような災害が考えられるかを知り、家族や地区で避難と連絡の方法を事前に話し合っておくことが大切です。また、非常持ち出し品をリュックサックに入れて普段から準備しておきましょう。

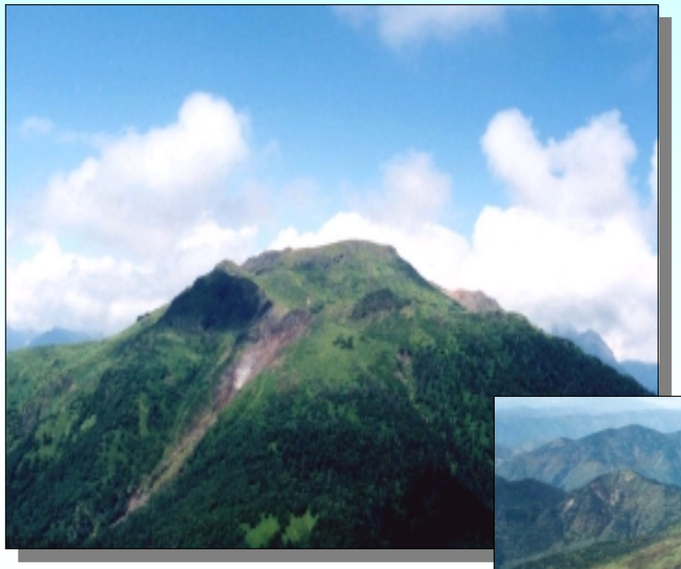
■ このマップの使い方

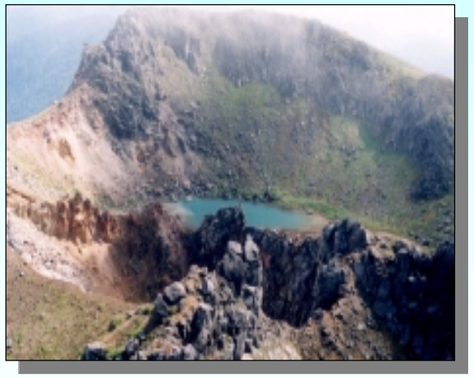
- マップ面を表にして、壁に貼ってお使いください。
- ご自宅の場所を書き込んで下さい。
- チェックリストを利用し、非常時持ち出し品を準備してください。

焼岳火山防災マップは、今後新たな調査の進展により内容が明らかとなった時点で順次更新していきます。

- 発　　行　：焼岳火山噴火警戒避難対策協議会
- 企画調査　：財団法人　砂防・地すべり技術センター
- 監　　修　：焼岳火山噴火警戒避難対策専門委員会【委員長：水山高久（京都大学大学院教授）】
- 問い合せ先：上宝村役場　ＴＥＬ０５７８－６－２１１１
　　安曇村役場　ＴＥＬ０２６３－９４－２３０１
- 発　行　日：平成１４年３月28日（Ver.1.0）

焼岳火山 防災マップ





■「焼岳火山防災マップ」の目的

　この焼岳火山防災マップは、近い将来、焼岳が噴火した時に想定される噴火の性質や規模、災害予想区域などについてまとめたものであり、これらの内容を多くのみなさんに理解していただくことで、焼岳が噴火した場合の被害をできるだけ小さくすることを目的としています。

　もしもの焼岳火山噴火に備えて、このマップに記載されている内容を普段からよく読んで、焼岳が噴火した場合にはあわてず落ち着いて行動するように心がけましょう。

■ 焼岳の火山活動史

焼岳は、数千年～千数百年の間隔でマグマの噴出を繰り返していました。約2,000年前には、中尾火砕流が発生したと考えられます。近年では、泥流により梓川が堰きとめられ大正池が形成された1915年（大正４年）の噴火、約１年間の継続的活動により足洗谷で泥流が発生した1925年（大正14年）の噴火、噴石により２人が負傷した1962年（昭和37年）の噴火などの水蒸気爆発が多数あります。さらに、現在も噴気活動を続けています。

このように焼岳は、噴火を繰り返してきた若い活火山であるため、今後も再び噴火する可能性があります。

年　代	主な活動状況
1962年（昭和37年）	・噴石により２人が負傷
1925年（大正14年）	・足洗谷で泥流発生
1915年（大正４年）	・泥流流下による大正池の形成
1907年（明治40年）	・水蒸気爆発の活発化（明治40～昭和14年までほぼ毎年噴火）
約2,000年前	・中尾火砕流の発生 ・溶岩ドームの形成
約5,000年前	・下堀沢溶岩の噴出

<1925年（大正14年）の噴火>

<1962年（昭和37年）の噴火>

■ 火山噴火に備えて

焼岳火山噴火に備えて、このマップに記載されている内容を普段からよく読んで、焼岳が噴火した場合にはあわてず落ち着いて行動するように心がけましょう。

【備えよう、防災用具】

次のものをリュックサックに入れて準備しましょう

- □ 飲料水・食料
- □ ヘルメット・防災頭巾
- □ マスク
- □ 防寒具
- □ 雨　具
- □ ラジオ
- □ 懐中電灯
- □ 救急医療品・常備薬

次のものはすぐに持ち出せるように準備しましょう

- □ 携帯電話
- □ 衣類、タオル
- □ お金・貴重品

【避難時のお願い】

§ お年寄りや子供、体の不自由な人を助けましょう

§ 土地に不慣れな人を助けましょう

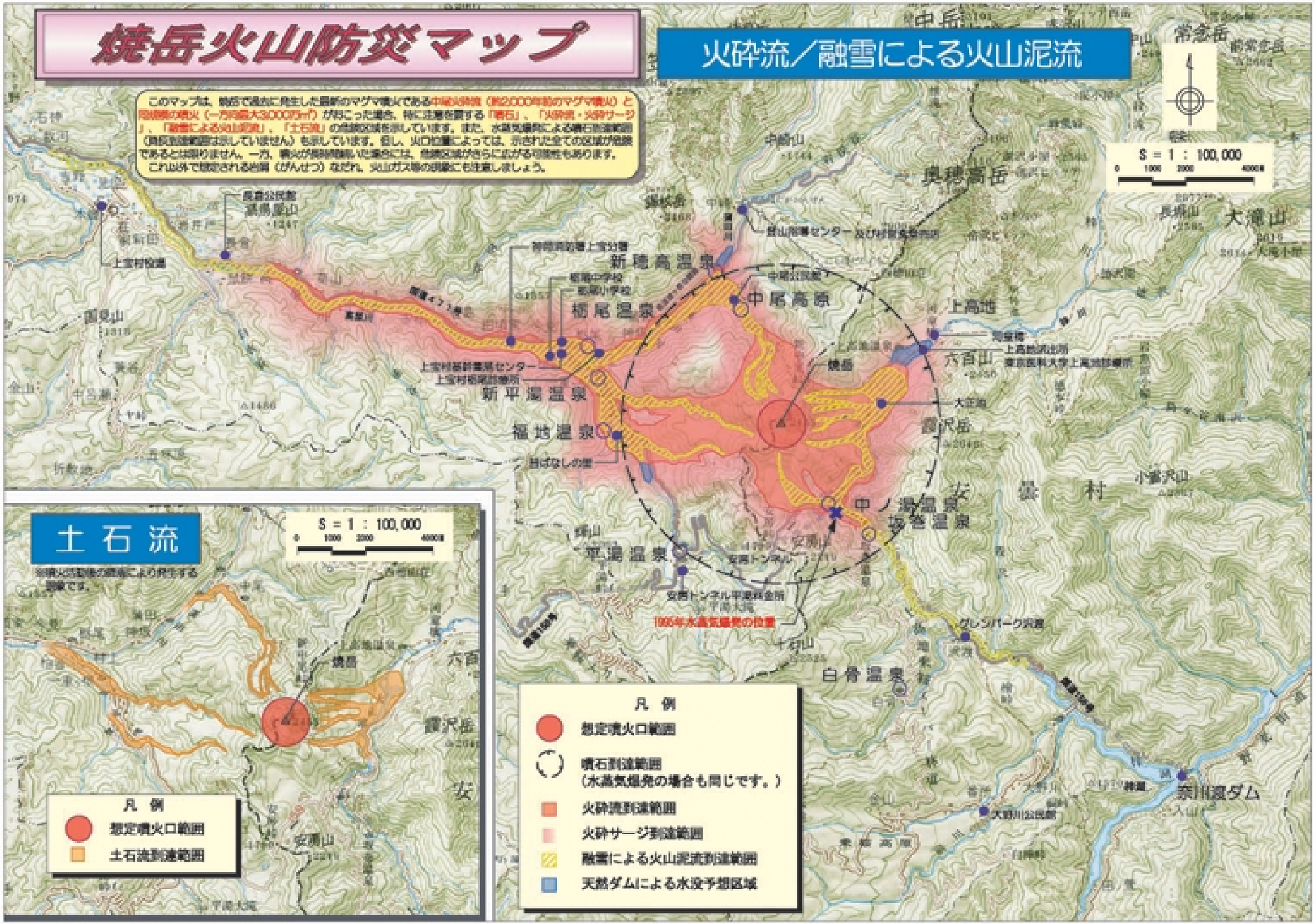
■ 火山噴火の前兆現象

～このような異変に気づいたら、役場へ連絡しましょう～

■ 気象庁の発表する火山情報に注意しましょう

気象庁は、火山に異常現象や噴火活動があったとき、直ちに「火山情報」を発表して、注意・警戒を呼びかけます。もしも、焼岳の火山情報が発表されたときには注意しましょう。

緊急火山情報	：生命・身体にかかわる火山活動が発生した場合、またはそのおそれがある場合に発表します。これが発表されたら、役場や警察の指示に従って、できるだけ早く避難しましょう。
臨時火山情報	：火山活動に異常が発生し、注意が必要なときに随時発表します。これが発表されたら、登山は控え、山の動きや役場からの情報に注意しましょう。状況によっては避難の準備が必要です。危険と思ったら自主的に避難しましょう。
火山観測情報	：緊急火山情報、臨時火山情報を補う場合や、火山活動に変化があった場合などに発表します。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の１地勢図　を複製したものである。（承認番号　平17総複、第1017号）」

■ 家族の連絡先メモ

■ その他メモ

■ 噴火がはじまったら

★ NHKテレビやラジオを通じて気象庁が発表する**火山情報**に注意しましょう！！

★ 役場や警察の防災無線や広報車などを通じて村長が発表する**「避難勧告」などの指示**があった場合には、その指示に従いましょう！！

★ 道路上に火山灰などが積もると滑りやすくなるため、注意して避難しましょう！！

■ 関係連絡先一覧表

●上 宝 村 役 場	0578－6－2111	●安 曇 村 役 場	0263－94－2301
●神 岡 警 察 署	0578－2－0110	●安 曇 村 駐 在 所	0263－94－2110
●神岡警察署栃尾交番	0578－9－2152	●豊 科 警 察 署	0263－72－0110
●神岡警察署平湯臨時派出所	0578－9－2372	●梓 川 消 防 署	0263－78－2090
●神岡消防署上宝分署	0578－9－3300	●梓川消防署安曇出張所	0263－94－2662
●上宝村栃尾診療所	0578－9－2053	●東京医科大学上高地診療所（開設期間:4/27～11/10）	0263—95—2935
●岐阜地方気象台	058－271－4107	●長野地方気象台	026－232－2304

■ 焼岳で想定される現象

このマップは、焼岳で過去に発生した最新のマグマ噴火である中尾火砕流と同程度の噴火がおこった場合、特に注意を要する「噴石」、「火砕流・火砕サージ」、「融雪による火山泥流」、「土石流」の危険区域を示しています。また、水蒸気爆発も発生します。

焼岳で想定されるこれ以外の現象にも注意しましょう。

【噴火の種類】

■水蒸気爆発：マグマの近くにある地下水が熱せられ、大量の水蒸気が急速に生成されて爆発を起こします。新しいマグマの噴出はないが、火口周辺の岩が砕けて噴石や火山灰として周辺に飛び散ります。爆風も起こります。同時に、火山泥流も発生し河川を堰き止める場合もあります。

■マグマ噴火：マグマが噴出します。マグマ噴火では溶岩流や火砕流が発生します。マグマ噴火に先立って、水蒸気爆発が発生する場合があります。

■降灰／噴石

1962 年焼岳

噴火により火口付近には石や灰が降ってきます。また、火口から離れるにつれて細かな灰が降ってきます。昭和37年の噴石では、火口付近に降った石で２人が負傷しました。火口から離れた上高地付近でも数cmの灰が積もりました。

【噴石到達範囲：マップに記載】

■火砕流／火砕サージ

1991 年雲仙普賢岳（尾関信幸）

高温の溶岩片、火山灰、火山ガスなどが混ざりあって高速で流れ下る現象を火砕流、溶岩片が少ない高温の砂あらし（爆風）を火砕サージといいます。

【火砕流／火砕サージ到達範囲：マップに記載】

■溶岩流／溶岩ドーム

1986 年伊豆大島（白尾元理）

火口から出てきたマグマがゆっくりと流れ下る現象を溶岩流、粘性の大きいマグマが火口からゆっくりと盛り上がってつくられた地形を溶岩ドームといいます。

■融雪による火山泥流

1974 年鳥海山（宇井忠英）

冬期の噴火により積雪が急速に溶けて土砂や流木をとりこみながら高速で流れ下る融雪による現象です。焼岳では火砕流の発生に伴う融雪による火山泥流を想定しています。

【融雪による火山泥流到達範囲：マップに記載】

■土石流

上々堀沢の土石流

噴火により斜面に火山灰が降り積もるとわずかな雨でも土石流が発生します。噴火活動後の降雨により発生する現象です。

【土石流到達範囲：マップに記載】

■天然ダム

大正池

火砕流、融雪による火山泥流、土石流などにより、河川に多量の土砂がたまると天然ダムとなり上流に水がたまることがあります。また、天然ダムが決壊すると下流域に洪水となって押し寄せる可能性もあります。

【天然ダムによる水没予想区域：マップに記載】

■その他

・岩屑（がんせつ）なだれ

噴火によって火山体斜面の一部が大規模に崩れ、多量の土砂、岩石が流れ下る現象です。

・火山ガス

普段でも噴煙・噴気には、有害な火山ガスが含まれており火口近くの登山道や噴気地帯、温泉でも中毒を起こすことがあります。

・地震／空振（くうしん）

火山噴火に伴う地震や空気の震えである空振（くうしん）により、建物や窓ガラスに被害が出ることもあります。

・地殻変動

マグマが地面を突き上げて地面が大きく変形することがあります。